



山梨県流通センターニュース

編集・発行 協同組合山梨県流通センター（中央市山之神流通団地2-6-1）
TEL (055) 273-4711 FAX (055) 273-4713



◀ 盛大に開かれた
50周年記念式典



▲ 式辞を述べる栗山理事長



▲ 受賞者を代表して謝辞を述べる中込 裕氏

11月18日 組合創立50周年式典・祝賀会開く

栗山理事長 未来に向けて前進をと呼びかける

組合創立50周年式典は、11月18日（金）16時から甲府記念日ホテルで開かれた。式典・祝賀会には総勢107人が出席し、厳粛かつ盛大に交流した。

進行は、細田俊副理事長の開式のことば、組合員物故者に対しての黙とうに続き、栗山直樹理事長が「流通センターの本格的な稼働から昭和後半のバブル景気と平成直後のバブルの崩壊など、日本経済を襲った荒波を受け、組合も金融事業の廃止や賃貸収入の確保など総合的な財務改善に努めてきた。こうした取り組みにより、組合の基盤固めと、次の新たな発展段階の出発点に立つことができたものと確信した」と述べた。「今、組合が最も重視すべき課題は、更なる一体性の確保の実現であり、団地再整備特別委員会は10年後、20年後のあるべき姿の構築に向け、将来ビジョンを『組合員が安全・安心で企業活動に専念できるまちづくり』と定め、『組合の維持発展』『防災拠点』『地域との連携』を目的として、新組合会館の新築と収益性の向上、旧会館跡地の有効利用と新規の企業誘致など検討を進めている」とし、「創立50周年を契機に、さまざまな組合事業を通じて、未来に前

進することを組合員一同改めて確認する」と式辞を結んだ。

次いで表彰式へ移り、次の方々が組合への功労を認められて表彰された。

中小企業庁長官表彰

中小企業基盤整備機構理事長表彰

山梨県知事表彰

//

//

//

//

全国卸商業団地協同組合連合会会長表彰

//

中込 裕氏

高野 孫左門氏

中込 武文氏

保坂 吉彦氏

数野 雄次氏

浅原 正樹氏

網倉 利廣氏

井上 雅博氏

小林 愛直氏

被表彰者を代表して、中込裕副理事長が謝辞を述べた後、(株)商工組合中央金庫から(協)山梨県流通センターへ感謝状と記念品が贈られた。

続いて、次の方々から祝辞を頂戴した。

経済産業省

関東経済産業局 産業部次長

小澤 元樹氏

山梨県 産業労働部長

山本 盛次氏

全国中小企業団体中央会 専務理事 佐藤 哲哉氏

来賓紹介、祝電披露の後、高野孫左エ門副理事長が閉式のあいさつを述べ、式典は滞りなく終了した。

式典終了後は、会場を移して祝賀会を開いた。17時25分に

栗山理事長から開会のあいさつの後、乾杯のご発声を望月智中央市長から頂戴し、祝宴に入った。祝宴の際には、ご公務により祝賀会から出席された長崎幸太郎山梨県知事より祝辞をいただいた。歓談の際には山梨県酒造協同組合、山梨県ワイン酒造組合と山梨県中小企業団体中央会のご手配で山梨県産の日本酒とワインが振る舞われ、ピアノ奏者の依田あんじゅ氏が、生演奏を披露し、祝賀会を盛り上げた。さらに「組合50周年のあゆみ」がスクリーンに放映され多くの方が組合の歴史を振り返った。

19時30分となり、中込武文副理事長からお礼の言葉があり、出席者一同で祝い合った創立50周年記念式典は盛況のうちに開きとなった。



▲ 中小企業庁長官表彰を受賞した中込 裕氏



◀ 中小企業基盤整備機構理事長表彰を受賞した高野 孫左エ門氏



▲ 山梨県知事表彰を受賞した左から中込 武文氏、保坂吉彦氏、数野 雄次氏、浅原 正樹氏、網倉 利廣氏



▲ 全国卸商業団地協同組合連合会会長表彰を受賞した左から井上 雅博氏、小林 愛直氏



▲ 祝辞を述べる経済産業省
関東経済産業局 産業部次長
小澤 元樹氏



▲ 祝辞を述べる山梨県
産業労働部長 山本 盛次氏



▲ 祝辞を述べる全国中小企業団体
中央会 専務理事 佐藤 哲哉氏



▲ 乾杯の発声をする
中央市長 望月 智氏



▲ 祝辞を述べる
山梨県知事 長崎 幸太郎氏



▲ 祝賀会の様子

来年は 癸卯 忍耐が実を結び飛躍期待できる

商工中金 村上支店長が好況示唆



令和4年の年末に当たります、協同組合山梨県流通センター並びに組合員の皆様にご挨拶申し上げます。本年も商工中金の業務に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。今年はヴァンフォーレ甲府の天皇杯での優勝や3年ぶりに開催されました「信玄公

祭り」では過去最高の動員数を記録するなど嬉しいニュースが続きました。

山梨県の経済動向を振り返りますと、一進一退を繰り返している新型コロナウイルスの影響、急激な円安、原料高、不安定な海外情勢という厳しい環境下にありながらも、緩やかに持ち直しているという1年だったと認識しております。

業種別に見ていきますと食品関連業は引き続きコロナ影響から中食需要が堅調に推移しており、好調に推移。半導体関連製造業も世界的な半導体不足の影響から需要が旺盛であり好調に推移。観光・飲食業は10月から開始された全国旅行支援の影響などにより復調の兆しあり。宝飾関連は素材によっては品薄状態が続くものもあり一部で需要が拡大しているが、原料の高騰影響により引き

続き厳しい環境が継続。物流関連業は、足元に落ち着きを見せつつあるも原油相場は依然高止まりしていること、ドライバーの高齢化等による人手不足、適正運賃への引上げ交渉難航、働き方改革対応（2024年問題）等により引き続き厳しい状況にある一方で、物流量増加や燃料油価格激変緩和補助金等の施策による持ち直しが一部で見られる。このように業種により差があるものの、来年に向け期待の持てる1年ではなかったでしょうか。

来年の干支は「癸卯（みずのと・う）」です。「癸」と「卯」の組み合わせから2023年は、これまでの忍耐が実を結び、勢いよく成長し飛躍するような年になることが期待されます。商工中金はこのような飛躍の年になるべく万全を期して皆様のご支援に取り組んでまいります。

最後になりますが協同組合山梨県流通センター並びに組合員の皆様にとって新しい年が本年にもまして素晴らしい年となりますよう、心よりご祈念申し上げ、年末のご挨拶とさせていただきます。

(株)商工組合中央金庫 甲府支店
支店長 村上 洋司

5社 10人 社会保険制度改革について学ぶ

加入対象者把握などを確認

社会保険制度改革セミナーが7月12日（火）に流通会館で開かれ、団地内外企業の5社から10人が参加した。講師に特定社会保険労務士 内田美幸 氏をお招きし、令和4年度内に施行される法改正を中心に講演いただいた。

改正される項目は、高齢者雇用に関わる法改正、雇用保険料率引き上げについて、育児・介護休業に関する法改正、健康保険・厚生年金制度適用拡大など多岐にわたるため、各改正項目の要点と注意すべき点に絞って解説された。

また2022年10月から、社会保険（厚生年金保険）の被保険者が101人以上の企業は、一定の要件を満たした短時間労働者も社会保険の加入を義務づけられ、2024年10月以降は被保険者数51人以上の企業にも適用される。内田氏は社会保険適用拡大に備えて、①加入対象者を把握、②法改正内容を社内に周知、③従業員とのコミュニケー

ション、④対象者の書類を作成し届けるなどの社内準備を進めるように呼び掛け、セミナーは終了した。



▲ 内田社労士から講義を受ける参加者たち

他社員との意見交換活発に

新入社員フォローアップ研修

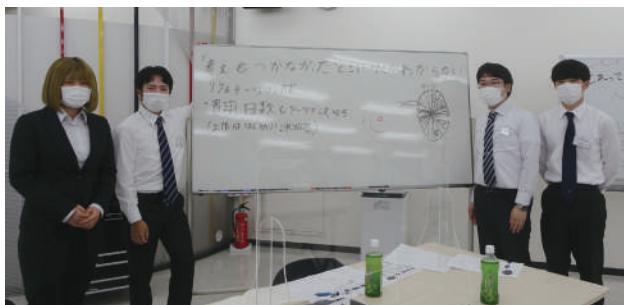
新入社員フォローアップ研修が2022年10月6日（木）、7日（金）の両日、流通会館で開かれ7社の15人が参加した。

講師は㈱学宣の鬼塚啓介先生。4月の新入社員研修から半年間が経過した自身の行動を振り返り、そこから更なるブラッシュアップを図るため、問題意識の向上、ビジネスマナーの再チェック、2年目を迎えるまでの残り半年間の行動計画を立てた。

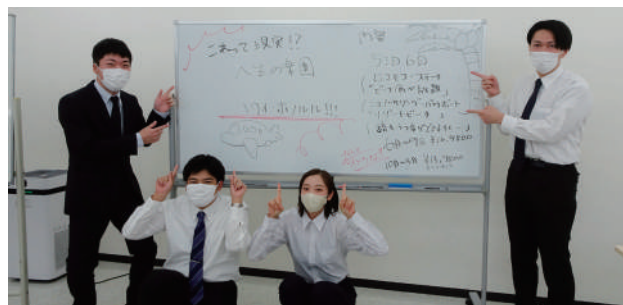
研修の中で鬼塚講師は、問題意識向上のために創造的発想法と呼ばれる手法を用いて、受講者が旅行会社の社員となりお客様に向けた旅行プランを提案するよう課題を

出した。受講者たちは各々話し合いながら、グループAは『リアルダーツの旅』、グループBは『これって現実!? ハワイ・ホノルル!!!』、グループCは『本人登場!! 映画のGO!』、グループDは『すべてがランダムな旅』といった独創的な旅行プランを考案し、発表しあった。

研修を受け受講者たちは、「グループワーク中心で、他の会社の方たちと交流が取れたり、意見を出し合うことで、多くの考えに触れることができ刺激になった」、「問題解決の仕方や考え方など新たに知ることができてよかった」など、自身の成長につながるセミナーとなった。



▲ グループA



▲ グループB



▲ グループC



▲ グループD

消費税の端末処理等で研修

インボイスセミナーに10社17人参加

インボイス制度セミナーが7月26日（火）に開かれ、組合員企業10社から17人が参加した。

講師は甲府税務署 法人課税第1部門 上席国税調査官 玉浦将憲氏。

セミナーでは、インボイスの記載事項に関する基本的な内容から、対応書類に関するケース別の具体例と消費税額等の端数処理について詳しく説明された。中には委託販売を行っている場合や、請求書を毎回発行しない場合などの特殊な例にも触れ、玉浦氏は各会社に応じた適切な方法を選択してほしいと語った。



サイバーセキュリティ対策セミナーに9社14人参加

オンライン参加も24人の活況



サイバーセキュリティ対策セミナーが8月23日（火）に開かれ、組合員・準組合員から9社14人が参加し、オンラインからは24人が参加した。講師は山梨県警察本部 生活安全部

生活安全捜査課 サイバー犯罪対策室 石川聡氏とNTT東日本山梨支店 ビジネスイノベーション部 マーケティング担当 塩川勇樹氏にお願いした。

石川氏からは『サイバー空間における脅威の現状とセキュリティ対策』をテーマに、全国で起きているサイバー犯罪の検挙件数やその種類に関する統計をはじめ、ランサムウェア攻撃の手口、未然防止対策や被害軽減対策について説明した。平成25年のサイバー犯罪検挙数は8,113件で、令和3年は12,209件と年々増加傾向にあるため、企業の信頼を守るためにも、被害防止・軽減対策に

ついて見直しを行うとともに、社員に対して適切なセキュリティ教育を行うなど、総合的な対策強化を図ることを推奨された。

塩川氏からは「サイバーセキュリティ対策についてのご案内」として昨今のセキュリティ事情と対策について説明した。今話題となっているのは「EMOTET」と呼ばれるメール経由で拡散するマルウェア（ボット）であり、感染手法は、ばらまき型マルウェアスパム、返信型攻撃メール、Office文書ファイルの不正マクロなど様々である。対策方法として『多層防御』を挙げ、重要な社内情報にたどり着くまでに、何層ものセキュリティ対策を重ねることが重要であるとし、ウイルスが侵入しやすい経路ごとの対策を紹介し講演を終えた。



全てのデータ電子で保存強調

篠原 講師 保存のツボしっかり伝達

定例懇談会が10月13日（木）に開かれ、組合員・準組合員48人が参加した。講演のテーマは『電子帳簿保存法を理解するツボ』として、(株)オービックビジネスコンサルタント 営業本部 首都圏営業部 東京第二支店 エリアビジネスパートナー課 課長 篠原陽介氏に講師をお願いした。

電子帳簿保存法は、①自分で作ったデータを電子データで保存する「電子帳簿等保存」、②相手から受領した紙書類を電子データとして保存する「スキャナ保存」、③相手から受領した電子データを電子データのまま保存する「電子取引」に分けられ、③の電子取引に関して大きな改定があった。

篠原氏は改定の大きなポイントとして①すべての事業者（発行側・受領側共に）が電子で保存すること、②デジタルデータでもらったデータは紙の保存ではなく、データのまま保存すること、③データ改ざん防止のためタイムスタンプもしくは訂正削除に関する事務処理規定等を設けること、④データ検索ができる体制が必要であること、⑤税務調査においてデータのダウンロード提出が必要であることの5点を必ず押さえていただかなければならない

とし、その詳細について重点的に解説を行った。

この法令の義務化は2023年12月31日まで猶予期間が設けられている。その間に会社内の電子帳簿保存に関するデータを洗い出し、適切な保管方法にて取り扱えるよう体制を整える必要があるため、篠原氏は使用している会計ソフトがどこまで対応しているかを調べ、場合によっては電子帳簿保存のための新たなソフト・ツールの導入を検討する必要があると語り講演を終えた。



ソフトボール 日医工山梨グループが優勝

8チームが熱戦展開

10月16日（日）に令和4年度流通センターソフトボール大会が釜無川スポーツグラウンドで開催された。台風や新型コロナウイルスの影響により、4年ぶりの開催となった。

開会式は中込武文研修厚生委員長のあいさつで始まり、恒例のラジオ体操を全員で行ってから予定通り試合開始となった。

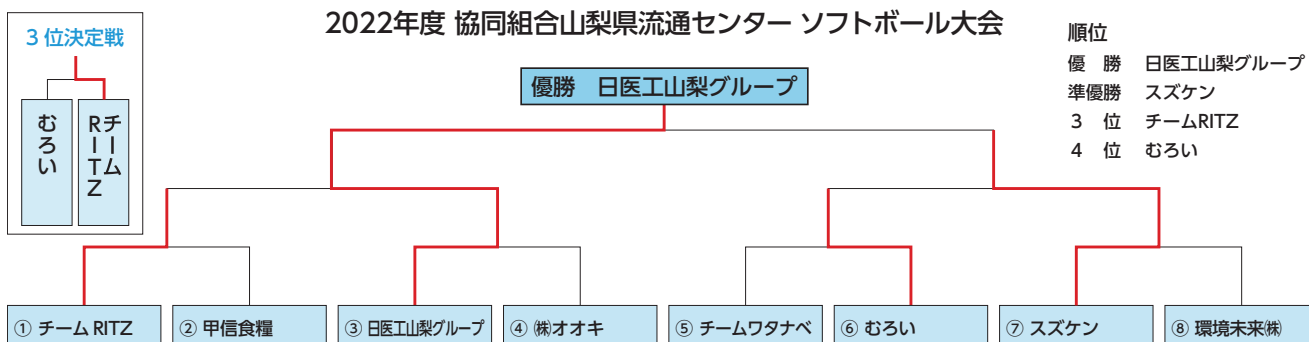
参加チームは8チームで、今年度はトーナメント方式が採用され、日医工山梨グループとスズケンが決勝へと駒を進めた。決勝戦は両チーム一進一退の攻防の末、14対13の僅差で日医工山梨グループが4回目4年連続の優勝を果たした。2位はスズケン、3位はチームRITZ、4位はむろいという結果となった。



▲ 優勝した日医工山梨グループ



▲ 準優勝したスズケン



高得点めざしローラーを滑らせる

軽スポーツ「カローリング」5人が楽しむ

健康運動セミナーが11月22日（火）に流通会館で開かれ、3社5人が参加した。講師は公益財団法人山梨県スポーツ協会の松山祥一講師にお願いし、軽スポーツの『カローリング』を体験した。

『カローリング』とは、氷上で行われるカーリングをフロアでできるように考察されたスポーツで、カラフルな6色のジェットローラー（2Kg）を11m先のポイントゾーンに向けて相手チームのプレーヤーと1投ずつ交互に投球し、ジェットローラーの止まった位置の点数に応じて得点が決まる軽スポーツ。

参加者たちは、各々協力し合いながら、相手のジェットローラーを枠外まではじき出したり、高い点数を稼ぐために慎重にジェットローラーを滑らせたりと工夫しながら軽スポーツを楽しんだ。



43社 645人 自身の健康改めて見直す

県厚生連と組んで内容充実

8月1日（月）～8月5日（金）までの5日間、流通会館で集団健康診断が実施され、43社645人が受診した。

今年度から健診機関を山梨県厚生連健康管理センターに委託し、健診のオプション項目にバス健診による肺CT検査が加わるなど新たな健康診断の体制を確保することができた。

会場では、協会けんぽ山梨支部による生活習慣病予防の対象者に向けた保険指導や住友生命保険相互会社甲府英煌支部による血管年齢測定を実施。自身の健康に関し改めて見つめ直す機会が得られる集団健康診断となった。



いざに備えて予防接種

771人がインフルエンザシャットアウト

インフルエンザ予防接種が流通会館で10月25日（火）26日（水）31日（月）、市川メディカルクリニックで10月27日（木）、11月10日（木）に実施され、771人が接種を受けた。

組合員（株）日医工山梨のご協力により、流通会館では医療法人啓徹会昭和メディカルクリニックが接種を行い、17:00の夕方のは医療法人啓徹会市川メディカルクリニックに接種をお願いした。

厚労省は、今年の冬は新型コロナウイルス感染症が今夏よりも感染拡大する可能性が高く、季節性のインフルエンザも流行するとし、発熱外来等がひっ迫する考えられている。感染症予防の1つであるインフルエンザワクチンを接種し、いざという時のためにも備えましょう。



環境美化に努めましょう

7月・9月に雑草処理を行う

組合員・準組合員の利用する団地内の駐車場、道路は毎年5月頃から雑草が生い茂るため、事務局では毎朝少しずつ除草剤を撒き、7月4日（月）9月13日（火）は団地内全体の雑草処理を行いました。また7月20日（水）21日（木）は道路沿いの植栽の手入れを行い、団地内の景観維持に努めました。



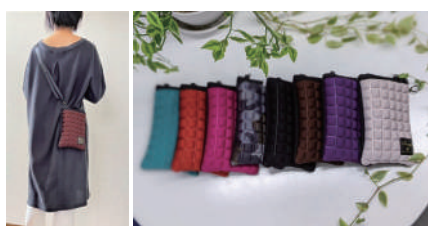
before



after

団地内企業取扱商品のPR用チラシ配布開始

従業員福利厚生と企業間のつながり強化を目的



株式会社 イシザワ
中央市山之神流通団地 2-7-6
Tel 055-273-6636



Instagram follow me

3月から新たな取り組みとして、『団地内企業取り扱い商品PR及び団地内で働く従業員の福利厚生のためのチラシ配布』を開始しました。こちらは組合員・準組合員が取り扱っている商品のPRと団地内で働く従業員の福利厚生を目的として、毎月中旬ごろに事務局より配布しております。ご紹介されたい商品がございましたら、事務局までご連絡をお願いいたします。

組合員(株)イシザワ商品PRチラシ

組合員の加入・脱退

組合員名	加入・脱退の別	住 所
(株)サン宝石	脱退	中央市山之神 流通団地 1-7-1
(株)聖和趣味の会	加入	中央市山之神 流通団地 1-7-1

組合員の代表者変更

組合員名	変更前	変更後
(株)イイダ	社長 飯田晴彦	社長 浜田篤志

準組合員の加入

準組合員名	加入・脱退の別	住 所
(株)サン宝石	社長 鈴木伸也	中央市山之神 流通団地 1-7-1
(株)YUYAMA	社長 湯山正博	中央市山之神 流通団地 1-7-2

2022年秋の叙勲「旭日単光章」を細田俊氏が受章



2022年秋の叙勲として、当組合副理事長、(株)文祥堂オフィスファシリティーズ代表取締役会長 細田 俊氏が「旭日単光章」を受章された。誠におめでとうございます。

組合事務局職員 田中幸雄氏が年金委員として厚生労働大臣表彰を受賞

組合事務局職員の田中幸雄氏が、長年の年金委員の活動や功績を受け、厚生労働大臣表彰を受賞された。誠におめでとうございます。

『事務局日誌』 ～8～11月の主な会議等～

◆8月

- 1～5日 健康診断
- 2日 正副理事長会議
- 9日 リサイクル・一斉清掃日
- 17日 団地再整備特別委員会
- 23日 サイバーセキュリティ対策セミナー

◆9月

- 1日 北ブロック懇談会
- 6日 正副理事長会議
- 12日 リサイクル・一斉清掃日
- 16日 理事会
- 28日 研修・厚生委員会
- 28日 ソフトボール大会主将会議

◆10月

- 4日 正副理事長会議
- 6～7日 新入社員フォローアップセミナー
- 12日 リサイクル・一斉清掃日
- 13日 定例懇談会
- 16日 ソフトボール大会
- 19日 団地再整備特別委員会
- 20日 総務委員会
- 28日 北ブロック懇談会
- 25～31日 インフルエンザ予防接種

◆11月

- 1日 正副理事長会議
- 4日 B C P対策チーム会議

- 5日 北ブロック懇談会バーベキュー大会
- 5、6日 フォークリフト運転技能講習
- 10日 インフルエンザ予防接種
- 12、13日 フォークリフト運転技能講習
- 14日 リサイクル・一斉清掃
- 18日 50周年記念式典・祝賀会
- 22日 健康運動セミナー
- 25日 理事会
- 26日 青年部「L o M A会」ゴルフコンペ
- 29日 総合防災訓練

かいがね

先日のことだ。小学6年生の孫が「じいちゃん。このあいだ授業で将来何になりたいか話したよ」と言うので、結果を聞くと「男子で一番多かったのがユーチューバーだった」。今どきの小学生の将来の夢がユーチューバーには驚いたが、次いで、「お前は？」と言うと、「僕は会社員」と。これには更に驚くやら、思わず失笑するやら。

そこで、何故子供たちの夢が、よく言えば現実的で、言わば小さくなってしまったのに、改めて考えさせられたのだが、いつの間にか日本人は夢を持てなくなったようにも思える。われわれが子供の頃は「末は博士か大臣か」などと言われもして、なれるかどうかは別にしても夢は大きく持つものと思われていた。しかしながら、今の世の中、博士の学位を持っていても仕事に就けない人が多い現実があり、大臣だからと言って尊敬できる政治家はめったにいないで、むしろ恥も責任感も節操もない政治家が跋扈している状況では、そう言う人たちを自分たちの将来の夢に重ねる発想にはならないだろう。

とは言え、希望はもう少し大きく持ってほしいと思うのだが、確かに最近では「正社員」になるのも大変で、「非正規」と言われる雇用形態にある勤労者は実に全体の半数近くに上るという調査があるのだから、正社員が夢であるのも無理からぬことかと思わぬでもない。

だが、現実を考えると正社員としても決して安心ではない。正社員も含めて日本の勤労者の平均年収はここ30年以上ほとんど上昇しておらず、欧米各国と比較すると半分くらい、アジアでは韓国を下回っている。

加えて、長期の不景気。先日、ショッキングな報道番組を見た。今の日本社会の断面に迫るもので、30代の男性の話。彼には妻子があり、一部上場の某建設会社に勤務している。数年前、住宅ローンで一戸建住宅を購入し、生活設計は順調で、いずれ年齢と共に収入は増え住宅ローンの返済は問題なく進むと考えていた。ところが、である。賃金は上昇どころか、本給同様に思っていた諸手当がなくなって収入は大きく減少する事態となり、ローンの返済は長期延滞し、遂に家は競売にかけられたのである。番組の中で彼の妻は「よもやこんな事になるとは思いもしなかった」と、涙ながらに語り、見ている私も暗澹たる気分となったのだった。

これが日本の現実なのか。何故こんな国になったのか。答えは簡単ではないが、長期化する不況が原因と言うだけではなく、国の債務は1,300兆円に迫り財政を圧迫して国の成長を阻み、社会の活力が大きく減退しているのは明白だろう。GDPの3倍近く、国家予算の10倍以上もの債務があるのだから当然の帰結ともいえるが、財政健全化は一向に議論にはならず、目先の政策に前のめりし、国のつけを将来に先送りしている。

人々が夢を持てる社会、それこそが健全な社会と言えるのだが、果たして未来の日本が健全な国に生まれ変わる基盤ができていくのだろうか。子や孫たちのためにもそうなることを願ってやまない。

(M)